

燃える230名の怒り

幕張支部

日刊 勤労千葉

82・5・6

No. 1036

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)巻 日三二七二〇七

4/28 取場集会で闘う方針・体制を確立

幕張支部通信員発

幕張支部は四月二八日、職場総決起集会を開き、滝口書記長への不当弾圧・政府・権力・当局による既得権剥奪・労働運動破壊に対し、重大な決意をもって対決することを確認した。

集会は一二〇名の組合員が結集するなか、本部からは山口副委員長・永田特執が出席し、国鉄の全般情勢と勤労千葉の方針について力強い提起を受け、白井支部長は「厳しい情勢を見すえ、支部二三〇名は今こそ団結して勝利するまで闘おう」と決意をのべ、参加者全員もすっかりと、とりまく情勢をつかみとった。



「本部」革マルと警察権力一体となった 組織破壊=オ2マル生攻撃を絶対に許さないぞ！ 検修合理化と真正面に向っている幕張支部 230名の決意は固い。
(1982・4・28 諸所での取場集会)

ている。

闘いを生かして

職場討議のなかで多く語られるのが、「七〇年頃の千葉支部の苦勞と勝利の教訓」である。

先輩者の多いわれわれの支部は、ほとんどの組合員がマル生闘争の試練を経ている。討論のなかでは、口々に「今日のようなデッチ上げを許すなら、明日はまっくらになる」「敗けられない」といった、決意みなぎるものがあり、それが若い者にも反映し、全体的活性化をつくり出しているといえる。

集会では、真藤副委員長から、「弾圧との闘いについて今後学習していく」ことが提案され、メーデーの意義と動員について、山岸教官部長から強く訴えられた。

わが幕張支部は不当弾圧をはね返し、反合・反戦反核・三里塚の勝利のために奮闘していく決意である。

弾圧粉碎！

「本部」派解体・一掃！
共にかんばろう！

労働者の底力を示してやる 滝口書記長決意表明

滝口書記長は、任意出頭の不当性と弾圧の背景・本質を述べ、「こんなデタラメな攻撃に敗けたまるか、労働者の底力がどういものか示してやろう」と断固たる決意が語られ、参加者全員が拍手で激励した。

燃える闘魂

幕張支部は、直接弾圧の矢面にたたきされている勝浦・成田・佐倉支部とともに、青年部を先頭としながら連日「籠城」でたたかっている。

「本部」革マルどもへの怒りを燃しながら、「反合」「反戦・反核」の学習も着実にちとられている。攻撃を逆手にとってがんばるのだ。

わが支部は徹夜勤務者も多く、国労の仲間も混じえての真剣な討論は、攻撃をいかにね返してゆくのかユニークな提案も出るなど、「智慧と力を合せて反動の嵐を断とう」という零闘気を高め

当面するスケジュール

- 5月6日 反弾圧支部交流(於佐倉幕張)
- 10日 銚子取集
- 11日 サークル協働 ソフトボール大会
- 20日 オ九回 組合費公判
- 23日 反戦・反核東京行動
- 24日 東奥三里塚現地集会